

2022年度第1学期始業式校長挨拶（2022. 4. 9）

2022年度の始まりに際し、私の方からは大きく3点、まず一点目は創立百周年に際して、次に二点目は今年度も続くであろうコロナへの対応について、最後に三点目として、諸連絡として、いくつかの連絡をします。

まず一つ目。創立百周年に関してです。

武蔵は1922年4月17日に開校しました。今年の4月17日で創立百周年を迎えます。このため、4月17日の日曜日に武蔵学園主催で開校記念式典を行います。ただし、式典は学園・大学・高校中学が一体になって行いますし、外部の方も多数招待するという事で、残念ながら、招待される参加者は限られてしまいます。生徒諸君は、高校中学それぞれ代表委員長などの代表生徒しか出られません。申し訳ありません。その代わりといっは何ですが、武蔵学園から、創立百周年記念の記念シャープペンシルが配布されます。レアものになりますので、大切に使用してください。

また、この記念式典では、記念講演として五神真東京大学前総長にお話をしていただく予定ですが、4月29日から開催される第100回記念祭でも、記念祭小委員会が同じく五神前東大総長をお招きして、講演をしていただくと聞いています。とても良いタイミングだと思えます。ぜひとも素晴らしい記念祭にしてほしいと思えます。

一口に百年といっても、この歴史の積み重ねは簡単なことではありません。大正期に旧制7年制高校として産声をあげた武蔵は、その後、戦争を挟みながら、幾多の試練を乗り越えて百年という歴史を刻みました。これはすごいことだと思います。それだけ長い間、多くの人から愛され支持をされたということです。先人の教職員をはじめ、歴史を作った一人一人の生徒、そして多くの関係者に、心から感謝と敬意を表したいと思えます。

そして、私たちは次の百年に踏み出すことになりますが、決して武蔵は今までのままで良いということではないと思えます。だからと言って、武蔵の良さや強みを消すことはないし、絶対に消してはいけないと思えます。

武蔵の強み・良さとは何か。例えば、豊かな自然環境、学問を追求しリベラルアーツや教養、あるいは本物を大切にする学びの環境、生徒も先生もみんな丸ごと知っている距離感の近さ、そうした中で自由にのびのびと成長していく武蔵生。それは武蔵の強みであるし、良さであると思えます。

一方で、自分たちが最高だ、自分たちが偉いと思うような「驕り」や「高慢な気持ち」を持ったとしたら、そこで成長はストップしてしまいます。武蔵の強み・良さを生かしながら、次の百年に向け、必要な進化をしていく。変わらないために変わっていく。そうした思いを込めて私たちは『新生武蔵』という旗を掲げました。その具体的な姿は、一枚の絵として「新生武蔵のグランドデザイン」として示してあります。学校ホームページにも載っていますので、ぜひ生徒諸君にも見てもらい、目指している方向性を見定めてほしいと思います。

そしてこの『新生武蔵』の旗のもと、武蔵生一人一人が、武蔵の良さや強みを生かしつつ、進化をしていこうという気概を持つこと、次の歴史を築いていこうという思いが大事だと私は思います。ぜひ、次の百年後も武蔵が存続し続けるよう、そして「武蔵って素晴らしい学校だよ」と評価され続けるよう、共に頑張っていきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

次に二つ目。新型コロナウイルスへの対応です。

新型コロナウイルスとの戦いも三年目を迎えました。まだまだ予断は許さないと思います。一方で、何をすればよいのか、何をしたらいけないのかというノウハウも十分積みあがってきました。

2022年度もやはり、新型コロナとの戦いは続くと思いますが、必要な感染防止対策を講じながら、武蔵本来の教育を取り戻せていけたらと思っています。

やるべきことは変わりありません。大きく三つです。

まず一つ目、絶対に無理をしない。毎朝の体調チェック、体調不良な場合は登校しない。引き続き、検温チェックをして校内に入ってきて下さい。

次に二つ目。校内での飛沫防止対策。特にマスクを外して食事をする場面は注意が必要で、個食・黙食を引き続き徹底する。さらに、最近報道されているとおり、空気感染・エアロゾル感染の懸念がありますので、換気を徹底する必要があります。このため、このたび、保護者会の支援を受けて、すべてのクラスに二台の空気清浄機が入りました。大切に使用してほしいと思います。

最後に三つめ。万が一罹患した場合の対応です。組主任や保健室の先生と連絡をとって、その指示を仰いでください。また、濃厚接触者であったり無症状であったりなど授業

が受けられる状況の場合は、オンライン授業を行います。これも各クラスで生徒諸君には機材のセットなど協力してもらっているところですが、引き続きよろしくお願ひします。

この4月には記念すべき第100回の記念祭も始まります。夏休みには山上学校やみなかみ実習なども予定されています。今までのノウハウも生かし、感染防止対策を講じながら、昨年度よりもさらに前に進んだ学校行事にできればと思っています。だから、くれぐれも不用意なクラスターを発生させないように、武蔵生一人一人の自覚を改めてお願ひします。

最後に大きな三つ目の話です。細かい話になりますが連絡事項が、全部で5つあります。

まず一つ目の連絡。皆勤賞・精勤賞の扱いです。

武蔵では、これまで卒業式のときに、中学・高校のそれぞれについて三か年無遅刻無欠課無欠席の者には皆勤賞、皆勤ではないけれど限りなく皆勤に近い者については精勤賞を授与してきました。

ただ、時代が変わっていく中で、この皆勤賞・精勤賞を授与する意義が失われていないかという問題意識から、昨年度先生方で、この存続について議論を進めてきました。その結果、三年間の時間をかけて、皆勤賞・精勤賞を段階的に廃止していくことにしました。今年度の新高1及び新中1から始め、来年度の新中1及び新高1、そして再来年度の新中1及び新高1と、三年間で廃止していきます。

補足説明をします。今までは「とにかく学校は休まずに来なさい」という時代の価値観があったと思います。私の学生時代にも「24時間働けますか」というキャッチコピーがありました。「モーレツ社員」とか「エコノミックアニマル」という言葉もあり、そうした価値観が日本の高度経済成長を支えていた面もありました。とにかく熱が出ても風邪をひいても、それをこらえて出勤するのが美德というような時代の精神があったと思います。

一方、現代の価値観は変わってきました。コロナでもインフルエンザでも熱があるときは無理をしない。逆に無理をすることによって周囲に迷惑をかける。また、仕事だけでなく家庭や個人の生活も大事にするという「ワークライフバランス」という価値観も大事にされるようになりました。

そうした時代の変化の中で、皆勤賞・精勤賞を「目的」に「体調が悪くても学校を休ま

ずに来させる」ということが教育的に果たしてよいのかということが論点になりました。もちろん、賛否両論があり、難しいところでしたが、結論としては、この創立百周年から次の百年に踏み出すことを機に、「皆勤賞・精勤賞の歴史的意義は薄れた」という視点から、廃止をすることとしました。

ただし、「結果」として、無遅刻無欠課無欠席であったということは大いに褒められるべきことだと思います。そうした生徒には何らかの形で、讃えることも大事だと思っていますので、そのやり方については今後検討していきたいと考えています。

次に二つ目の連絡です。民法改正に伴う成人年齢引き下げの問題です。この4月1日から民法が改正され、成人年齢が18歳に引き下げられました。したがって、高校3年生の生徒は、18歳になった時点から、法律上は「成人」として扱われます。

「成人」ということですので、法律上は保護者の庇護を離れ、自立した大人としての責任が問われることとなります。すでに選挙権は付与されていますが、今回は例えば、18歳になれば、クレジットカードなども親の同意なしに作成できるようになります。一方で契約トラブルに巻き込まれたりしたときに親が助けられないとか、自己破産をした場合の債務などもそのまま高校生に負わされてしまうなどの懸念が示されています。

武蔵という学校は皆さんを一人の人格として大人扱いをしてきた学校だと私は思っていますが、この民法改正により、改めて、特に高校3年生は、その大人としての自覚をもって、自らの立ち振る舞いに留意してほしいと思います。

次に三つ目の連絡です。大学生協の利用についてです。

武蔵大学が国際教養学部を開設するにあたり、東門横に11号館ができ、その1階に大学生協が移ってきました。昨年3学期の始業式でお話したように、その利用にあたっては、追って連絡をするということでしたが、大学生協の皆さんとも話し合い、来週月曜日の4月11日から高中生の利用も認めてもらうこととなりました。

生協では、図書や文具のほか、飲食物も売っています。また、新しい生協では、ラウンジや屋外のテラスもある、おしゃれな感じになっています。ぜひとも自由に使用していただきたいのですが、利用するにあたっては、以下の三点を守ってもらうこととしました。

①1階のラウンジ、テラスは、生協で買った食品の飲食時のみ利用できる。ただし長時間は利用しない。大学生もラウンジやテラスを多数利用すると思いますが、大学生協である

ことを踏まえ、気を使ってほしいと思います。

②カップ麺を購入した場合は、生協でお湯を入れてもらったら、売店1階のラウンジかテラスで黙食し、高中敷地内には持ち込まない。また、ごみは、ラウンジ備えつけのごみ箱に捨てること。

③新11号館については、生協以外のフロアの立ち入りはしない。

以上三点です。簡単に言うと、新しくオープンした大学生協はどんどん利用して良いけれど、「公共心」を持ってほしいということです。どうぞよろしくお願いします。

次に四つ目の連絡。昨年の3学期や春休みに行った工事など施設整備の報告です。三つあります。

一つ目は先ほどお話をした各教室における空気清浄機の設置です。どうぞ壊すことのないよう、大切に使用してください。

二つ目は、サッカーグラウンドの人工芝の張り替えです。15年ぶりの張り替え工事も、サッカー部同窓会や保護者会の皆様のご支援もいただいて3月25日に無事終了しました。サッカー部だけでなく、体育の授業でも新しい人工芝を味わってほしいと思います。

三つ目は、食堂横に設置された受水槽です。外から水を引き込み貯めておく受水槽は、これまで高校中学独自では持っておらず、大学側の受水槽から長い距離の排水管を通して水を引いていました。しかしながら、この方法によると、大学エリアの不具合により断水が起きたり、排水管の腐食による品質面の不安が生じたりするなどの課題が生じていたことから、このたび、練馬給水事務所との協議のうえ、東京都の補助金を活用して、高校中学独自に水を引き、約30トンの受水槽を設置することとなりました。目には見えませんが、今後、安定的衛生的な水の供給ができることになりましたので、よかったと思います。

最後に五つ目です。生徒との校長面談です。

これまで校長室に於いて、昼休みの時間を使って、生徒との面談を実施していましたが、コロナ禍では、緊急事態宣言が発令されていたり、まん延防止等重点措置が適用されていたりで、その期間は実施できていませんでした。ただし、それらも解除されましたので、校長の生徒面談を再開したいと思います。ゴールデンウィーク明けに高3から始め、下の学年へと向かっていきたいと思っています。詳しくは追って連絡をします。どの学年まで実施できるかわかりません。多分難しいかなと思いますが、できる学年まで頑張りたいと思います。よろしくお願いします。

以上で、私の話は終わります。

それでは、創立百周年にあたる2022年、一つ一つ、共に新しい歴史を築いていきましょう。ご清聴ありがとうございました。